

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26221302	研究期間	平成 26 年度～平成 28 年度
研究課題名	mDia が紡ぐアクチン細胞骨格の個体生理での役割と分子メカニズムの解析	研究代表者 (所属・職) (平成 29 年 3 月現在)	成宮 周 (京都大学・大学院医学研究科・特任教授)

【平成 27 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、mDia によるアクチン細胞骨格の①シナプス前週末可塑性における働き、②免疫 T 細胞の活性化における働き、③精子の形態形成における働き、さらに、④皮膚の腫瘍形成での働きといった広い分野へ縦横断的に展開する挑戦的研究である。その研究は概ね着実に進展しており、期待された成果を上げつつあると判断できる。しかしながら、皮膚の腫瘍形成についてはやや遅れており、研究計画の見直しを含め、新たな検討が望まれる。</p>	

【平成 29 年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	本研究では、mDia の遺伝子欠損マウスを作成し、Rho-mDia 経路の神経シナプス前終末の可塑性、免疫 T 細胞の活性化、精子形態形成における役割や皮膚ガン発症への関与を明らかにした。mDia が神経可塑性へ関与していることや社会隔離ストレスによる不安亢進に働いていることを示すインパクトある成果が出されているものの、皮膚ガンへの関与などを解明するには至っていない。また、発表論文が少ないことから、今後の成果発表に期待する。